

リッチ・スペットです。サマンサ・スペットです。私たちは生後22か月の息子リースを溺死で亡くしました。皆さんに同じことが起きてほしくありません。生まれたばかりの赤ちゃんを失うことなど考えたくはないでしょうが、溺水事故はあっという間に静かに起こります。リースを失った日は超大型の嵐・サンディが来る2日前でした。そのため私は嵐の備えて庭の家具を片付けている間、リースをみてもらえるよう友人に頼んでいました。単純な誤解が原因ですが、友人はリースが私と一緒にいると思い、私はリースが友人と一緒にだと思っていて、私たちが別々になった5分の間にリースは裏庭に来て、庭の池に落ちて溺れたのです。

1～4歳児の死亡原因第1位が溺死です。事故はあっという間に静かに起こります。

水深わずか2.5～5cmでも子どもは溺れることがあります。

子どもの成長とともにリスクは変化します。米国疾病対策センターによると、1歳未満の乳児は浴槽で溺れる可能性が最も高く、1～4歳の子どもは家庭用プールで溺れる危険性が最も高いです。

5～14歳の子どもは河川やプールで溺れる可能性が高くなります。

子どもの安全を守るための注意点です。

子どもが水の中や水のそばにいるときは一瞬でも離れないこと。また他の子どもに見てもらわないことです。

赤ちゃんは常に手の届く範囲に置くこと。

お風呂に入れる前にタオルやバス用品をそばに用意しましょう。赤ちゃんから手を放さずにすみませす。浴室を出るときは赤ちゃんと一緒に連れて行くこと。ベビーバスやバスシートを使ってもです。倒れる可能性があります。

赤ちゃんを浴槽に入れる前に手でお湯が適温かどうか、必ず確認してください。

浴槽の栓は抜いておきましょう。子どもが水を出しても浴槽に溜まりません。

安全のため浴室のドアを閉めておきましょう。

使用後はバケツ、浴槽、クーラーボックス、子ども用プールの水を抜きます。

小さいときから、水に入る前に大人の許可を得るよう教えましょう。

プールがある場合は、プールの周り、特にプールと家の間にフェンスを設置しましょう。自動で閉まりロックされるゲートを選びましょう。ゲートを開けたままにしないでください。水面の波を検知するプールアラームがあれば、さらに安全です。誰かがプールに落ちるとアラームで知らせます。

水辺では目を離さないでください。水に入る子どもをしっかり見守れる大人を割り当てましょう。子どもが見当たらないときはまず水の中を確認してください。心肺蘇生法を学びましょう。緊急援助の求め方を確認しましょう。

ライフガードのいる所で泳ぎましょう。水辺では大人の監視が不可欠です。子どもが上手に泳げるかどうかに関わらずです。

ボート、カヌー、カヤック、パドルボードでは沿岸警備隊認定のライフジャケットを着用してください。浮き輪は避けましょう。水辺では沿岸警備隊認定のライフジャケットを着用してください。

水難事故は防ぐことができます。水の安全や泳ぎ方を学ぶことで、溺れるリスクを軽減できます。1歳から水泳を学ぶことができます。親子クラスは、早い段階から子どもが水に親しめる方法です。

地域の水泳教室を探してください。親子で泳ぎ方を習得し、水遊びを楽しみましょう。